

平成三十年六月投句

紫陽花の迫りて人の波曲がる

梅雨の海茫々雲仙見えざりき

梅雨曇水面にひよいと針を投げ

勝利

水運のかって港や花菖蒲

真理子

埋もれつつ花摘む庭師菖蒲園

手のひらを蹴って逃れし螻蛄の闇

農機具が車道を走る田植え時

釣道具抱え蚊帳吊草の土手

立消えの鵜飼の旅の計画書

節子

炭坑の遺構台座や小判草

由紀子

豆爆ぜるやうに弾ける雹の庭

外灯なきところまで来し蛍狩

シエスタと名付けし医院さくらんぼ

錆びつきし英彦山線や夏の草

光子

万緑の英彦山の山気を胸底に